

小学生の家庭における食事作りの実態

生川美江¹, 磯部由香², 平島円², 打田詩歩²

¹三重短大(非), ²三重大

【目的】近年わが国では、高齢化や核家族化の進行、共働きや就労時間の増加、価値観の多様化など社会環境の変化が著しい。これらによって生じた養育者の食意識や食行動の変化は、家庭における共食の機会や子どもの食体験の減少をまねき、食習慣の確立に大きな影響を及ぼしている。そこで本研究では、子どもたちが日常生活において主体的に食事作りを実践できるよう、調理体験の提供やその学習内容について検討することを目的として、小学生の食事作りに対する興味・関心、経験等の実態を調査した。

【方法】平成28～30年に三重県内でガス会社により開催されたイベントへ来場した小学1～6年生238人と、平成29、30年に開催された料理教室に参加した小学4～6年生53人、計291人を対象に、質問紙法による調査を実施した。回収率は100%であった。

質問内容は、食事作りに対する興味・関心、食べ物の好き嫌い、手伝いの状況および家庭における調理経験についてとし、選択回答させた。差の検定にはカイ二乗検定を用い、有意水準は5%とした。また、調理の好き嫌いの理由、好きな食べ物と嫌いな食べ物、作ったことがある料理については自由記述とした。

【結果】調理が「とても好き」、「好き」と答えた児童はあわせて78.7%だった。好きな理由は、「楽しいから(46.3%)」が最も多かった。「あまり好きではない」、「好きではない」をあわせて19.6%で、理由は「面倒くさいから(32.7%)」が最も多かった。包丁に対する自信は、「とてもある」、「少しある」をあわせて70.1%、食材の買い物には、「よく行く」、「ときどき行く」をあわせて82.5%と、調理に対する興味・関心のある児童は多かった。一方、食べ物の好き嫌いは「ある(83.2%)」が多く、嫌いな食べ物は、「野菜類(71.0%)」、「きのこ類(11.7%)」、「魚介類(10.3%)」が多かった。家庭において調理の手伝いを「毎日している」と回答した児童が4.8%、「ほとんどしていない」が52.6%であり、日常的に食事作りに参加している児童は少なかった。配膳は「毎日している」、「週に4～6回している」をあわせて43.3%、同じく片付けは45.0%と半数近くが日常的に行っていた。家族との調理経験があるのは87.3%で、「調理の手伝いをしている($p<0.001$)」や「配膳の手伝いをしている($p<0.05$)」、「調理が好き($p<0.001$)」と答えた割合が高かった。ひとりでの調理経験がある児童は47.4%で、「調理が好き」、「家族との調理経験がある」と答えた割合が高かった($p<0.001$)。家族と作ったことがある料理は、「カレーライス(23.6%)」、「ハンバーグ(15.0%)」、「ぎょうざ(12.2%)」の順に多く、ひとりで作ったことがある料理は、「卵焼き」が44.9%と半数に近かった。これらの結果から、子どもたちが調理を好きになり、食事作りを実践するために、家庭における調理や配膳の手伝いの重要性と、学校や地域において調理機会を提供し、子どもたちに調理経験を積ませる必要性が示唆された。